

1 全国学力・学習状況調査結果及び本市の学力向上の取組について

- (1) 令和元年度全国学力・学習状況調査結果について P. 2 参照
- ・小学校においては、宮城県及び全国の正答率を2～6ポイント下回っているが、昨年度に比べ宮城県や全国との差は縮まっている。
 - ・中学校においては、宮城県及び全国の正答率を2～10ポイント下回っている。昨年度に比べ、全国及び宮城県との差は国語はほぼ同じであるが、数学は広がっている。
 - ・学力向上に向けた3つの柱である「児童生徒の学習意欲の喚起」、「分かる授業に向けた授業改善」、「基本的な生活習慣の確立に基づいた家庭学習の充実」に向けて具体的な取組を強化していく。
- (2) 令和元年度 東松島市の学力向上策について P. 4 参照
- 学力向上に向けた具体的な取組について
- ア 夏休みの短縮等により5日分の授業日数を確保するとともに、ICT環境の整備し、デジタル教科書等の電子教材の積極的な活用により、学力向上を推進している。
- ICT整備 WI-FI等ネットワーク整備状況
- 宮野森小(H28) 鳴瀬未来中(H29)、矢本西小(H30) 大曲小(H30)
赤井小(H30) 大塩小(H30) 矢本東小(R1) 矢本一中(R1) 矢本二中(R1)
鳴瀬桜華小(R2) 赤井南小(R2 予定)
- デジタル教科書の導入
- 令和元年度までに宮野森小、矢本西小、大曲小、赤井小、大塩小、鳴瀬未来中に導入
令和2年度までにデジタル教科書を全校に導入
- イ 児童生徒が「分かる授業づくり」に向けて、今年度から市学力向上推進委員会を立ち上げ、効果的な授業事例の情報交換・情報共有を図り、各学校での授業改善に活用するとともに、市学力向上推進委員会として目指す児童生徒の姿を設定し、今年度中に市として共通実践するための授業モデル(指導過程)を策定する。市学力向上推進委員会は3か年継続する予定である。
- ウ 各学校においては、校内での授業研究会を中心に、「児童生徒の学習意欲の喚起」、「分かる授業に向けた授業改善」に取り組んでいる。
- 市教育委員会においては、今年度、教員の一層の授業改善に向けて、下記の研修会を実施する。
- 11月25日(月) 会場：鳴瀬未来中学校
講師 宮城教育大学名誉教授 相澤 秀夫先生
14:10～16:10 予定 授業研修会(相澤先生の示範授業を含む)
17:00～18:30 予定 講演会「読解力を高める授業と読書」(仮題)
対象：教員、保護者等 会場：未定(矢本地区)
- 12月17日(火) 会場：東松島市コミュニティセンター
講師 文部科学省学力調査官 伊坂 尚子 氏による研修会
「学力向上に向けて ～全国学力調査の活用～」 14:35～16:45
対象：教員
- エ 「基本的な生活習慣の確立に基づいた家庭学習の充実」等に向けて、スマホ等の適切な利用に向けたメディアコントロールの取組への協力依頼を保護者宛てに通知するとともに、各学校における児童生徒主体の取組の推進を指示している。

1 小学校

※宮城県…仙台市を除く平均正答率

	国語 A				国語 B				国語
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R 1
東松島市	67.2	67.8	73	64	59.4	51.3	55	49	58
宮城県				67				52	61
宮城県(仙台市を含む)	69.6	72	74	69	63.9	56.2	56	53	62
全国	70	72.9	74.8	71	65.4	57.8	57.5	55	64
県比較				-3				-3	-3
県(仙台市を含む)比較	-2.4	-4.2	-1	-5	-4.5	-4.9	-1	-4	-4
全国比較	-2.8	-5.1	-1.8	-7	-6	-6.5	-2.5	-6	-6

	算数 A				算数 B				算数
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R 1
東松島市	71.2	71.5	75	56	41.6	40.4	40	43	62
宮城県				60				47	64
宮城県(仙台市を含む)	74.1	76.5	77	62	42.7	45.6	44	49	65
全国	75.2	77.6	78.6	64	45	47.2	45.9	52	67
県比較				-4				-4	-2
県(仙台市を含む)比較	-2.9	-5	-2	-6	-1.1	-5.2	-4	-6	-3
全国比較	-4	-6.1	-3.6	-8	-3.4	-6.8	-5.9	-9	-5

2 中学校

	国語 A				国語 B				国語
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R 1
東松島市	71.3	75.9	70	74	61.5	65.2	64	56	69
宮城県				75				59	71
宮城県(仙台市を含む)	76.1	76.9	77	77	66.2	67.9	73	62	74
全国	75.8	75.6	77.4	76	65.8	66.5	72.2	61	73
県比較				-1				-3	-2
県(仙台市を含む)比較	-4.8	-1	-7	-3	-4.7	-2.7	-9	-6	-5
全国比較	-4.5	0.3	-7.4	-2	-4.3	-1.3	-8.2	-5	-4

	数学 A				数学 B				数学
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R 1
東松島市	57	57.4	53	62	34.2	40.5	37	42	50
宮城県				61				43	55
宮城県(仙台市を含む)	63.1	60.4	63	65	40.7	43.8	47	47	58
全国	64.4	62.2	64.6	66	41.6	44.1	48.1	47	60
県比較				1				-1	-5
県(仙台市を含む)比較	-6.1	-3	-10	-3	-6.5	-3.3	-10	-5	-8
全国比較	-7.4	-4.8	-11.6	-4	-7.4	-3.6	-11.1	-5	-10

	英語
	R 1
東松島市	48
宮城県	50
宮城県(仙台市を含む)	53
全国	56
県比較	-2
県(仙台市を含む)比較	-5
全国比較	-8

<注記>

①平成30年度より宮城県平均正答率として政令指定都市である仙台市を含む結果、含まない結果の2種類が示された。

②本年度、中学校で初めて英語科の調査を実施している。

③昨年度は理科の調査を行っているが、隔年実施のため、本年度は調査していない。

④昨年度までA・B問題での調査を実施を行っていたが、本年度より混合問題に変更されている。

⑤H30より小数第一位を四捨五入した数値で示されている。

小学校

1 国語科 結果の概要と考察

宮城県及び全国の平均正答率を 4.0~5.8 ポイント下回っているが、昨年度に比べ宮城県や全国との差はやや縮まっている。

宮城県及び全国に比べ、読む能力については 1.9~2.9 ポイント下回っているものの、昨年度と比較すると差が縮まっている。一方、書く能力で 3.2~4.4 ポイント下回り若干差が広がった。また、言語についての知識・理解・技能では、全国の平均を 9.6 ポイント下回っており、昨年度より差が広がった。

2 算数科 結果の概要と考察

宮城県・全国よりも 3.0~4.6 ポイント下回っている。しかし、昨年度と比べると、宮城県・全国との差は大幅に縮まっている。

領域別に見ると、すべての領域において宮城県・全国を下回っているものの、「図形」の領域において、宮城県・全国との差が 0.6~1.1 ポイントとなっており、改善が見られた。また、昨年度課題であった「数と計算」領域においては、宮城県・全国との差が若干ではあるが縮まっている。

算数に関する関心・意欲・態度の面では、すべての項目において肯定的回答が昨年度に比べて上昇した。特に「算数の授業の内容は、よく分かりますか」の項目では、宮城県・全国の平均を 5.3 ポイント上回る結果となった。一方、「算数の勉強は好きですか」の問いに対しては、まだ宮城県・全国の平均より約 4 ポイント下回っている。

中学校

1 国語科 結果の概要と考察

宮城県及び全国の平均正答率を 4.0~5.8 ポイント下回った。話す・聞く能力については 1.3~2.3 ポイント下回っているものの、昨年度と比較すると差が縮まっている。また、言語についての知識・理解・技能では、全国の平均を 6.4~6.8 ポイント下回っており、昨年度より差が広がった。

書くことにおける「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」ことが求められた設問の平均正答率が宮城県及び全国と 8.0~9.4 ポイント低くなった。

2 数学科 結果の概要と考察

全体の合計において、宮城県・全国よりも 8.0~9.8 ポイント下回り、昨年度と比べると、宮城県・全国との差は大幅に広がっている。すべての領域において宮城県・全国を下回っており、特に「数と式」「関数」において差が広がっている。

数学に関する関心・意欲・態度の面では、すべての項目において宮城県及び全国を 10 ポイント以上下回った。全国と比較すると「授業の内容はよく分かりますか」という設問において 10.6 ポイント低くなっている。

3 英語科 結果の概要と考察

宮城県及び全国と比較し、全体的に平均正答率は下回っている。特に書くことにおいては、6.0~10.4 ポイント下回っており、大きな差となっている。聞くことにおいては、日常的な話題について正確に聞き取る点に課題が見られた。

英語学習に関する関心・意欲・態度については、宮城県及び全国と比較し、全体的に 10 ポイント以上の差が見られた。正答分布図を見ると、上位層・中位層が薄く、下位の割合が高くなっている。

令和元年度 東松島市の学力向上策について

東松島市教育委員会

1 学力向上における重点目標と施策

子どもたちの可能性を伸ばす学校教育の推進

確かな学力の育成

学習意欲を高める分かりやすい授業づくりの推進

教育用 I C T 機器の積極的な活用

外国語指導助手 (A L T) 配置による英語教育・国際理解教育の推進

保護者との連携による家庭学習の充実

豊かな心を育む教育の推進

心あったかイートころ運動の推進

自然体験，社会体験活動の充実

キャリア教育の充実

健康な体づくりと体力の向上

望ましい食習慣の確立に向けた食育の推進

運動習慣の定着に向けた指導の充実

いじめ・不登校を生まない人間関係づくりの醸成

魅力ある学校づくりの推進

子どもの心のケアハウスの運営

特別支援教育の充実

特別支援教育支援員の配置

特別支援教育コーディネーターとの連携強化

特別支援学級共同学習の実施

幼稚園教育の充実

個性を伸ばす幼児教育の推進

家庭・地域等との連携による子育て支援の充実

幼・小連携の推進

園児，児童生徒への適切な支援

相談体制の充実（いじめ相談員・不登校相談員・学校専門相談員の配置，スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの派遣）

就学援助の充実

生徒指導の充実と学校運営の効率化

生徒指導の 3 機能（自己存在感・自己決定の場・共感的人間関係）を生かした授業の展開

教職員研修や研究活動の推進

学校共同事務室の設置と学校間連携の推進

児童・生徒の読書活動の推進

学校図書館を活用した本に慣れ親しむ読書活動の推進

学校図書館補助職員の配置

小学校の図書電算管理システムの効果的活用

市図書館や読み聞かせボランティア等との協働による読書活動の推進

快適に学べる教育施設の整備
統合小学校の校舎再建計画の促進
鳴瀬桜華小学校災害復旧校舎建設工事
鳴瀬桜華小学校災害復旧造成工事
施設・設備の充実
赤井南小学校増改築に伴う仮設校舎建設事業
矢本東小学校プール改築工事
赤井小学校・大塩小学校冷房設備設置工事
教材備品の充実（教育用ＩＣＴ環境の整備促進）
学校給食センターの運営事業の充実
地場産品食材活用の推進
アレルギー対応食の提供
登下校時の安全確保
通学路合同点検及び通学路安全推進協議会の実施

2 学力向上対策

学力向上に関しては、各校の実態や取組状況によって様々な観点からの対策が考えられる。ここでは、東松島市立小学校8校、中学校3校が、各校の独自性を加味しながら推進する際の東松島市全体としての視点を示したいと考える。

また、課題についても同様に、様々な要因が考えられるが、東松島市として特に改善に向けた努力が必要と思われる点を挙げる。

これまでの取組により、学力向上には大きく「児童生徒の学習意欲の喚起」、「分かる授業に向けた授業改善と授業方法の工夫」、「基本的な生活習慣の確立に基づいた家庭学習の充実」の3点が不可欠であることが明らかになった。その上で、学力向上には、児童・生徒が自ら学習に取り組むための環境づくりや保護者・地域との連携も重要であるということが分かった。これらの点を踏まえた上で、以下のような対策を示す。

(1) 学力向上に向けた推進体制の充実

令和元年度から「東松島市学力向上推進委員会」を設置し、児童生徒の学力に関する実態の分析をもとに、授業改善に向けた方策を策定し、実践を通して検証していくことで、児童生徒の学習意欲を喚起し、学力を高める授業づくりを目指すとともに、教師の授業力向上を図っていく。

各校の学力向上に向けた取組や校内研究を中心に、東松島市全体の傾向や課題を明らかにしつつ、中学校区を基盤として各校の取組状況を共有しながら具体の対策を検討し、それにもとづいた実践を継続する。

児童生徒の実態を十分に把握し、各校の現状に対する課題意識や目標、改善策等を校内でしっかりと共有し、教職員が共通理解のもとに一丸となって学力向上に向けた取組を推進する。

教務主任者会、研究主任者会などの活用をとおり、学力向上に向けた中堅層の充実を図るとともに、初任者研修をはじめ初任者層に対する授業研修の機会を確保し、教職員一人一人の学力向上への意識の高揚と授業力の向上を図る。

令和2年度小学校及び令和3年度中学校の新学習指導要領完全実施を見据え、夏季休業日を4日間短縮し授業日数を十分に確保したり、ＩＣＴ機器の整備を推進し

たりするなどの手立てを講ずることで、確かな学力の定着を図る教育課程の編成を実現していく。

(2) 「分かる授業」に向けた授業改善の工夫

各教科のねらいを明確にし、より一層の言語活動の充実を図り、理解と表現を関連付けた授業を展開する。

「学力向上に向けた5つの提言」や「算数・数学ステップ・アップ5」等をもとに、「分かる授業」「できる授業」に向けた実践とその検証を積み重ね、指導過程の改善を図る。

「主体的・対話的で深い学び」の具現化を目指した協働の教材研究や授業研究を通して得た具体的な方策等をもとに年間指導計画の改善を図る。

児童生徒の実態を把握し、教材特性を生かした段階的・系統的な指導を行う。

(3) 児童・生徒の学習意欲の喚起と好ましい学級づくり

温かな人間関係を基盤とした学年・学級づくりを行う中で、互いに認め合いながら児童生徒個々の能力や個性を尊重し合える学びの集団づくりに努める。

学習対象への興味・関心を高め、「どうしてだろう」「やってみよう」「分かった」「できた」等生徒指導の3機能を生かした授業展開に努め、学習意欲を高めていく。

教師と児童生徒、児童生徒間の好ましい関わりの中で日常の学習が展開されるように、学習のきまり（学習規律）の意義について再確認し、共通理解・共通実践を推進する。

心が安定し、落ち着いた態度で授業に臨めるよう、すべての教育活動の基盤となる道徳教育の充実を図る。

(4) 基本的な生活習慣の確立に基づいた家庭学習の充実

市全体として、児童生徒の健全なメディアコントロールの取組を推進し、スマホ・ゲーム等利用を減少させ、家庭学習や読書に取り組む時間の増加を目指すとともに、自立心を育み、健全な生活習慣を確立させる。

「家庭学習7つのツボ！」等を活用し各学年の実態に応じて自ら学習に取り組むことのできる児童・生徒を育てる。

コミュニティ・スクールの特性を生かし、地域や人と触れ合う中で健全な社会性を育み、自尊感情や規範意識を高めていけるよう、家庭・地域との連携を一層深める。

(5) その他の支援

個別の支援を要する児童生徒については、支援員の配置等により、適切な支援を行うことができるようにする。

各学校の課題に応じて、関係機関（教育事務所や県総合教育センター等）と連携しながら、支援体制を整備していく。